

調査項目		実施機関		平成18年度		平成19年度	備考	
		林	道	調査内容	調査結果概要	調査計画(案)		
エゾシカ	過去のエゾシカ採食圧把握			○ 中小径木の年輪分析による、過去の若齢木へのシカの影響の把握(補足調査)	年輪分析により、1900年以降においても樹皮剥ぎは見られる時期があったものの、予測通りごく少なく、現在のエゾシカ密度は、過去と比較して非常に高密度であるという平成17年度の結果を補完。	—		
	エゾシカの植生への影響把握	○		真鯉地区、ルサ相泊地区、陸志別地区、連山中腹地区の4地区に35本の混合ベルト調査区を設置し、森林植生と採食圧を調査	真鯉地区が被食本数、被食面積ともに最大で、他の3地区に有意差はなかった。	継続実施		
			○	遠音別岳周辺の植生調査及びエゾシカ採食痕の調査(過去の調査区の復元と新規調査区の設定)	標高約300m~1000m地点に調査区6ヶ所を設定。現状ではこれらの地域の採食圧は低かった。	「知床岳・知床沼」で実施		
			○	知床半島沿岸域希少植物群落補足調査(平成17年度の海岸域における在来植物群落の分布調査の補足調査)	高茎草本群落を主体に調査、昨年調査に加えて在来種23種を確認。風衝地群落を含む主要種の残存状況を把握。	補足調査		
	季節移動把握			○ エゾシカ季節移動調査(標識個体のラジオテレメトリー調査による季節移動の把握:知床岬、幌別・岩尾別、真鯉)	平成17年度と同様の結果。越冬地への忠実性が高い。通年型と移動型が混在。越冬地移動は12月以降。	「ルサー相泊」で実施	※朝日新聞社・知床財団によりH17に知床岬越冬群への標識付け実施	
	自然死個体数分析				自然死個体分析。	岬における自然死個体分析の実施	「岬・ルシヤ」で実施	※斜里町、羅臼町、知床財団等による独自の取り組みとして主要越冬地での生息動向調査(ライトセンサス等)、自然死亡状況調査等を実施中
	シカ生息動向調査				航空センサス、ライトセンサスによる生息動向の把握	航空センサスを12月、3月に実施。	継続実施	
	防鹿柵の効果把握			○ 知床岬3ヶ所の植生回復試験区と対照区のモニタリング調査	ガンコウラン群落、山地高茎草本群落、亜高山高茎草本群落で在来種数増加など、順調な回復傾向。	継続実施		
				○ ウトロ市街地鹿柵効果把握(防鹿柵の効果検討調査)	柵は平成18年12月に完成。内部のシカは追い出し可能だが、非閉鎖部分(国道など)から柵内へ戻る個体が一部あり。追い出し継続中。	—		
密度操作実験予備調査等			○ 知床岬シカ密度操作実験の予備調査(岬での捕獲手法の検討。)	捕獲手法等検討のための現地調査を実施。				
			○ ルサ・相泊地区シカ密度操作実験の予備調査(植生調査の手法及び捕獲方法に関する検討)	捕獲手法等検討のための現地調査を実施(調査実施中)	密度操作実験(試験捕獲)検討中			
			○ 岩尾別、真鯉地区シカ密度操作実験の予備調査(植生モニタリング手法の検討)	植生調査区を設定。	継続実施			

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。
 注2) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を精査予定。

陸域生態系

外来種	外来植物		○ 知床岬周辺でのアメリカオニアザミの駆除。過去に駆除を実施した箇所の経過観察。アメリカオニアザミの分布状況調査。駆除作業の検証。	アメリカオニアザミの生息分布域が広く個体数も多いため、今後も駆除作業とモニタリングの継続が必要。	継続実施	
	外来動物 (アライグマ)		○ アライグマからシマフクロウを保護するため、アライグマの生息状況・侵入経路の調査及びアライグマの捕獲調査による生態等に関するデータの収集等の実施による防除対策の検討。	斜里町管内において、足跡トラップを24地点に、箱罠を24地点に設置し調査を実施。箱罠による捕獲調査によりアメリカミンク2頭捕獲。	継続実施	
	その他外来生物		○ 道路沿いにおけるジキタリス等外来植物の除去	ジキタリス等の遺産地域内での分布状況把握及び簡易な駆除	簡易な駆除の実施	
希少種	シマフクロウ		○ 繁殖個体数の確認、標識調査	生息状況調査、標識調査を5～6月に実施。19羽に標識したほか、標識前に死亡が確認された雛6羽を確認	継続実施	
	シマフクロウ・海ワシ類		○ ハザードマップ作成	生息状況と死因または阻害要因を整理し、リスクの軽減策について検討。あわせて、事故が起こる可能性を評価する地図の作成	継続実施	
	海ワシ類		○ 海ワシ類越冬個体数調査	海ワシ類の生息個体数、生息状況、生息分布をモニタリングするため、道東地域を中心とした全道で調査を実施（現在調査中）	継続実施	
			○ 海ワシ類自然採食環境餌資源利用調査	自然性越冬地である河川環境におけるオオワシ・オジロワシの越冬状況や餌資源利用を明らかにし、海ワシ類にとっての好適な越冬環境を把握する調査を実施（現在調査中）	未定	
		○ 公園利用が海ワシ類の生息に与える影響把握調査	観光船による海ワシ類に対する餌付けについて、実態を把握するとともに、周辺地域の餌資源量との関係を含めて検討するための調査を実施（現在調査中）	未定		

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。
注2) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を精査予定。

植物	希少植物群落			<input type="radio"/>	2005年度の海岸域における在来植物群落の分布調査の補足調査を実施（再掲）	前出			
	植生調査			<input type="radio"/>	知床半島の羅臼湖周辺の植物相の調査。	羅臼湖周辺で11種の知床新産植物を含む58科217種5変種の維管束植物を確認	継続実施		
	植物種インベントリ作成			<input type="radio"/>	北大総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理・植物種のインベントリ作成。	北大博物館所蔵の標本について、526点の標本のラベルデータをデータベース化	継続実施		
	シレットコスミレ				<input type="radio"/>	シレットコスミレの分布域を把握し、過去の調査と比較検討。	1982と1984年に遠音別岳のシレットコスミレ分布域に設置・調査された定点と同地点において再調査を実施したところ、個体を確認。1984年と比較すると32.4%減ではあったが、年変化が大きいことが示唆されているため、増減を判断するためには今後定期的なモニタリングが必要。	定期的把握	
					<input type="radio"/>	知床連山及び遠音別岳周辺のシレットコスミレの個体群からサンプルを採取、遺伝的多様性を把握	生息状況、開花・結実状況の調査からは、良好種子繁殖により個体群が維持されていると考えられる。	-	
利用状況				<input type="radio"/>	利用者の動向や利用による自然環境への影響の把握（知床沼利用状況や、夜間動物観察状況、アンケート・聞き取り等）	知床沼では8/12～14に計12名の野営を確認。入山簿によると8/18には20名の団体利用も見られる。夜間の五湖付近では多い日ではバス9台による動物観察ツアーが実施されていた。	継続実施		
その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む)									
陸水域生態系	河川工作物	サケ科魚類遡上状況調査			<input type="radio"/>	主要27河川におけるサケ科魚類遡上量の推定、分布状況、河川工作物のサケ類への影響等の把握	対象27河川においてシロザケ・カラフトマス・サクラマス・オショロコマを対象に資源量の推定や産卵床の調査やダム等による遡上・産卵への影響状況や河川別のオショロコマの分布現況を調査する。(現在調査中)	主要2河川におけるサケ科魚類遡上状況調査(モニタリング)	
		河川工作物の影響評価			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	WGの意見を踏まえて河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態)	アイトマリ川、オショロッコ川、ショウジ川、チエンベツ川、知徒来川、羅臼川・ルシャ川の河川動態・土砂動態調査を行った	WGの意見を踏まえた河川工作物の影響評価に資するための調査(河川環境、土砂動態、河川工作物改良効果把握のためのサケ科魚類モニタリング調査)
	生態系	海域から陸域への栄養還元				<input type="radio"/>	サケ科魚類による栄養塩輸送に関する調査	ルシャ川におけるカラフトマスの遡上動態およびサケ類を利用する河川内および陸上生物の安定同位体分析を実施。現在、データ解析および試料の分析中。	継続実施
その他、(国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む)									

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。
注2) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を精査予定。

海域生態系	インベントリ調査	海の生物相調査			○ 知床沿岸の浅海域生物相の把握	夏季および秋季に岩礁潮間帯を中心とした採集調査を実施。魚類59種、貝類17種および海藻・海草類50種を確認。魚類については未記載種3種が含まれている可能性が高い。	継続実施	
					○ 浅海域藻場調査（知床半島のコンブ場の現状と特徴の基礎情報を得る。（全国129箇所にて実施予定））	7月に調査が行われ、21科38種海草・海藻を確認。	—	
					○ 水中ロボット（ROV）を用いた生物群集のモニタリング	視覚的な観察が困難である海底環境および棲息種について羅臼町の沖合い水深60-220mの5点においてROVを用いて調査を実施。その結果、同水深帯においても底質や海底地形に起因する水の動きによっても出現種が異なることが明らかになった。	—	
	海鳥類	海鳥類調査			○ 知床半島の海鳥（ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウ）生息数、繁殖個体数のモニタリング（モニタリングサイト1000海鳥調査）	取りまとめ中	5年に1回	
	海棲哺乳類	海棲哺乳類調査			○ 知床半島沿岸及びその周辺海域における海棲哺乳類の生息状況やこれによる漁業被害の実態について把握する。	ラインセンサスを行い、アザラシ類の個体数及び分布域についてのデータを収集及び聞き取りによる漁業被害調査（現在調査中）	休止	
	魚介類	漁業資源調査			○ 主要な魚介類の漁獲統計調査・資源量調査・生息環境調査等の実施	調査が項目が多岐にわたるため、結果省略	継続実施	※漁協、水試等により様々な調査を実施中
	海洋環境	海洋環境調査			○ 知床を中心とした海域で、衛星画像解析により水温、流水分布及びクロロフィルaの濃度を衛星リモートセンシングにより定期的に把握。海洋環境及び基礎生産の変動を把握	2006年1月から13ヶ月のデータを解析した結果、知床周辺海域では春（夏）と秋年2回のブルームが起り、春のブルームの時期は斜里側で6月上旬、羅臼側で8月上旬と半島両側で異なるが、秋には両側で10月上中旬であった。	継続実施	
沿岸海洋観測				○ 海洋観測ブイの作成	水温・塩分・クロロフィルなど海洋観測ブイを作成	観測ブイの設置・観測開始	※ウトロ、羅臼にそれぞれ1基設置	
その他、（国、道だけでなく町や各研究者等が実施していく様々な調査・研究を含む）								
知床データベース	データベースの整理及びGIS等による統合			○ データベースの拡充	作成中（資料1-3参照）		前年度に作成された自然環境、社会情報等の追加情報や前年度までの各種モニタリング等調査結果を追加し、必要に応じて各種計画策定に必要な図面を提供する。	

注1) ※として合同事務局以外が実施する調査についても備考の中で含めている。
注2) 優先度の高い調査から実施し、必要性や予算に応じて調査項目を精査予定。